

文 教 福 祉 常 任 委 員 会 記 録

平成 30 年 10 月 16 日(火)午後0時 57 分～午後1時 19 分(9 階 909 会議室)

○出席委員(9名)

委員 長	丹治 誠	副委員長	二階堂武文
委 員	沢井 和宏	委 員	小熊 省三
委 員	根本 雅昭	委 員	梅津 政則
委 員	高木 克尚	委 員	尾形 武
委 員	真田 広志		

○欠席委員(なし)

○市長等部局出席者(なし)

○案 件

所管事務調査の件

- (1) 所管事務調査について
- (2) その他

午後 0 時 57 分 開 議

(丹治 誠委員長) それでは、お疲れさまでございます。ただいまから文教福祉常任委員会を開会いたします。

初めに、所管事務調査についてを議題といたします。

所管事務調査のテーマにつきまして、これまでの調査テーマの経過及び正副委員長案をお手元に配付させていただいておりますので、まずその内容につきましてご説明させていただいた後に、委員の皆様からのご意見を頂戴したいと思います。

それで、皆様のお手元に資料まず 1、経過ということで、今まで文教福祉常任委員会で取り上げてきたテーマ、このような感じになっています。この委員会、前は待機児童の解消に関する調査、子ども未来部、その前が地域福祉の充実に関する調査、健康福祉部、その前が市立図書館に関する調査、教育委員会、このような流れでやってきております。

もう一枚の資料 2 ですけれども、こちらについて今回皆様にご提案する内容でございます。2 案あ

りますので、できればこの2つのうちどちらかにきょう、できればというのは議決をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず、調査テーマ1ですけれども、健康福祉部、仮称健康寿命延伸のための生活習慣病対策に関する調査、調査の目的、それから調査事項につきましては、急性心筋梗塞や脳梗塞など、生活習慣病に起因する死亡率が全国平均より高い本市の現状において、平均寿命、健康寿命延伸のための生活習慣病改善等の課題と対策についての調査を行うものであるということです。

それから、もう一つのテーマの2番目ですけれども、所管が教育委員会で、仮称小学校におけるICTを活用した学習活動の充実に関する調査です。調査目的、それから調査事項ですが、平成32年度の新学習指導要領の実施により、小学校においてプログラミング教育が全面实施されるなど、小学校におけるICT環境整備並びに教員研修体制の整備等が急務となっていることから、本市の小学校におけるICTを活用した学習活動実施に向けたICT環境、教員研修体制整備などの現状と課題並びにICTを活用した学習活動内容の充実に関する調査を行うものであります。

以上2点なのですが、最初の生活習慣病対策ですけれども、前回委員会終わった後ちらっと私のほうこんなのどうでしょうかねなんて話をさせていただいた経過はあるのですが、生活習慣病をテーマに取り上げたときに少しひっかかるころがあつて、要は落としどころなのですけれども、福島県自体は急性心筋梗塞とかの死亡率がワーストワンで、一方福島市のほうではそういった死亡率は全国平均よりは高いというようなことはわかっているのですけれども、数字的にではどのぐらいなのかという具体的なところはちょっとわからないところがあったりするということと、あとそういう福島市の現状と例えば似たようなところでの先進地なんかがあるかどうか、いろんな取り組みをしている先進地はあるとってはありますけれども、福島市と同じ方向の感じで取り組んでいるところが果たしてあるのかどうかというのはちょっと調べてみないとよくわからないので、調べるのが所管事務調査だといえればそれはそれまでなのですけれども、そういったところで何となく方向性が見えないかなというところは少し心配なところなんです。なおかつ福島市でふくしまし健康づくりプラン2018というのが策定されたばかりというのもある程度は市当局も取り組んでいるつもりではいるのだろう。健康づくりプランも皆さんに配付しましたが、中身を見てみると、こんなことをします、こんなことをしますなんて書いてあるのですが、では具体的にそのために何に取り組むのだということは書いてはいないのです。だから、そこら辺を調査するというのもやろうと思えばできるのかなという気はしておりますが、いずれにしろこの生活習慣病対策を調査事項として取り上げた場合に、うまく提言として落とし込めていけるのかなというのが少し心配なところではあります。

それから、もう一方のICTのほうに関しては、平成32年度に新しい学習指導要領で小学校でプログラミング教育を全面的に実施するという話になっている中で、皆さんのお手元の資料に新学習要領の実態に関する調査なんていうのが2つぐらいあるのですけれども、これを見ていくと、1枚は都道府県別のデータで、一概には何とも言えないのですが、福島県は結構低いのです。最下位の項目もあ

ったりとか。これはICTの環境なので、ハード面、コンピュータの台数とか、LANの整備率とか、あと高速インターネットが入っているかどうかとか、そんなようなどっちかというハード面の調査結果ではあるのですが、福島県はかなり低いほうではあります。もう一方の福島県内の市町村別の調査結果もあるのですが、これ見ると、福島市はまだましなほうのもあったり、全然だめなものもあったり、さまざま、ばらばらな感じになっています。ただ、ICTに関してはこういう例えば無線LAN整備するとか、LAN環境を整備するとか、電子黒板入れるとか、そういったハード的な整備というのは予算さえ組めばある程度できてしまうものなので、それはそれで大事なことではあるのですが、どっちかという教員の研修とか、教職員が扱えないと子供に教えられないので、そういう教職員の研修であったり、あるいは今後プログラミング教育が始まるにあたって子供たちが意欲的に教育に取り組めるような指導のあり方とか、ICTを活用すれば、ただ単に情報处理的なものだけではなくて、体育に動画を撮って活用するとか、さまざまな活用の仕方もあったりして、そういったことを先進的に取り組んでいるようなところもあったりするようです。そんなことでこの2つ挙げさせていただいたのですが、きょうどちらかに決めさせていただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

何か皆さんからご意見ございますでしょうか。

(真田広志委員) 委員長のほうから1つ目のテーマについてはなかなか落としどころのほうで課題があるというような話もあったのですが、ICT化のほうは今福島市でも試行段階だと思うのですが、それらの状況なんかも含めて調査していくということなのでしょうけれども、今全国一律にこれからの取り組みとしていわゆる必修化されてきますよね。ということなので、特にこれに対しての先進地みたいなのところがどこまであるのかというような部分もちょっと見えてこないのですが、

(丹治 誠委員長) 国のほうで最近手挙げでやっているようなところがあったり、特色を持たせて教育しているようなところはあるのです。そういうところをやろうと思えばできるという感じですかね、ICTに関しては。ちなみに、プログラミングとかICTに関しては、福島市の関連の計画でいくと福島市教育振興基本計画に、平成32年度までなのですが、ちらちらと、ちょこっと書いてあるだけで、具体的なことは余り書いていないのです。ですから、今からやれば提言をそこに寄せることもできるのかなという気はしております。そんな状況です。

(高木克尚委員) 余りいい発言でなくとられるかもしれませんが、テーマ1のほうは確かに命にかかわる非常に大切な課題ではあるかと思うのですが、私ごとで大変恐縮ですが、これを調査した上で提言に至り、それを我々自身が本当に研さんし、実践できるかという自信がないので、非常にジレンマも感じておる次第でございます。

以上です。

(尾形 武委員) 来年の6月を目途に意見をまとめなければならない所管事務調査なので、やっぱり

スパンを考えればどっちがいいのか。

(丹治 誠委員長) そういうことですね。そうなりますね。ぶっちゃけ健康寿命のほうは私も最初いかなと思ったのだけれども、広がればどこまでも広がるし、細かくすると医学的な話になってしまっ
て、これ……

(尾形 武委員) 平均寿命が長い県へ視察に行くとかあるけれども、なかなかつかむところが、2年
くらいかかるよね。

(丹治 誠委員長) これ見ると、このプランの後ろにいっぱい数字書いてあるのですけれども、これ
見るとヘマトクリットがどうかと言われてしまったのではちょっと提言としてまとまり切らなくな
ってくるので、それはちょっと心配なところではあります。

(小熊省三委員) 興味があるという意味では、健康の問題では先進県とか秋田も含めていろんなと
ころで取り組みやっているとと思うのです。ただ、さっきも言ったけれども、調査するとなると本当に、
僕としてはやってもいいかなと思うのだけれども、ただ6月までにまとめるといったときに、それは
ちょっときついなという思いは確かにあります。ただ、本当の意味では、そういう意味では先進的に
自治体によってはそういうふうに取り組みとしていろいろやっているところはあるので、それは学ぶ
べきところもあるだろうとは思いますが、期間の問題でちょっと皆さんにそういう意味では一
致できる部分があります。

(根本雅昭委員) 今高木委員からテーマ1、命にかかわるというお話あったのですけれども、私も同
じように命にかかわる問題は非常に重要だと思っていて、テーマ2も、私実は情報モラルの啓発
活動なんかあちこちでやらせていただいていたのですけれども、福島県内でも座間市の事件に巻き込
まれた高校生いましたけれども、ICT使い方間違えるとやはり同じように命にかかわることに発展
しかねないということもありまして、同じように命にかかわる問題なのかなというふうに感じており
まして、今までの話の落としどころとか、いろいろそういう都合もありますけれども、個人的にはテ
ーマ1も興味ありますけれども、テーマ2も興味あると。どちらも同じように命に。

(丹治 誠委員長) 県の計画もあるので、ほかのところ。その中にもリテラシーは入っ
てはいるのです。重要なことではあると私も思います。

(梅津政則委員) 所管の部局のバランスからいっても教育委員会の番なのかななんて思って、2でい
いのではないかなと思っています。

以上です。

(沢井和宏委員) 皆さんの意見がそっちのほうに固まりつつあるので、なかなか言いづらいのですけ
れども、ICT教育、昔から結構コンピュータ教育が何かやられているのですけれども、先進地視察
で授業を見せてもらったり、そういうのも考えられると思うのですけれども、往々にしてつくられた
という、そういう部分がやっぱり出てくるのかなという、そういう危惧は何となく見えているもので
すから、ただこれからこれを本当にどういう位置づけでやっていくのかというのは非常に大事だと思

うのです。どうしてもコンピュータという飛びつきやすい、子供も飛びつきやすいし、興味を持ってやるのですけれども、教育の本質からいってどういう位置に置くのかというのはすごく、今のそうでなくても学校の中なかなかいろんな問題抱えている中で、国からこういうふうに改定されたからといって全部の学校で始まったにせよ、なかなかこれに押されてしまうとちょっと本筋の教育を見失う部分も出てくるのかなという気もしないでもないですけれども、そういう方向で皆さんが固まりつつあるというなら異論はありません。

(丹治 誠委員長) ICT使うと何のために使うかといったら、まさに沢井委員がおっしゃるような感じですね。そのためには、ICTのためにICT使うわけではなくて。

(沢井和宏委員) そういう傾向が出始めのころは特に強かったのです。私もICTを使った研究授業なんか二、三度やりましたが。

(高木克尚委員) 教育上必要な技術力を養うプログラムになっていると思うのですけれども、何よりも学校で教えるのだから、技術的な面と道徳観というか、モラル観といいますか、そっちも一緒に若いうちにセットでこういう先進技術に触れていってほしいなど。そういうところで私は先進技術のみの調査よりはそちらも含んでいただければありがたいなと。

(丹治 誠委員長) そういったことも含め、リテラシーという言葉もありますけれども、それは大事なことだと思います。

(小熊省三委員) ICTの調査項目なのですから、小学校におけるICT環境の問題と、それから教員の研修体制の現状と課題、それから教育活動の充実に関するという3つの側面というか、についてやるということですね、あくまで。

(丹治 誠委員長) 一応こちらの案としてはそういうことにさせていただきました。

あと今皆さんからご意見さまざまいただきましたので、それでは大体所管事務調査の内容は今のご発言で調査テーマ案2のほうにということにしたいと思いますが、小学校におけるICTを活用した学習活動の充実に関する調査ということでよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) それでは、そのように進めさせていただきます。ありがとうございます。

それから、その他ですけれども、委員の皆様からほかに何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) なければ、以上で文教福祉常任委員会を終了いたします。

午後1時19分 散 会

文教福祉常任委員長 丹 治 誠